

# テラ・ドームぬりえ

たいようけいてんたいへん  
太陽系天体編

その2

すいせい

## 水星



わたしたちが暮らす太陽系のいちばん内側を回る惑星。太陽からの平均距離は58万km。赤道半径2440 kmと地球の半分以下のサイズで、しかも

太陽に近いので、肉眼で観察できるの

なる。興味深いのは、水星の自転周期

日であり、3分の2の共鳴関係になっ

ての日の出まで)は176日と、1年(88日)よ

の温度は摂氏400度まで高くなるが、大

いたない夜の面では、熱がほとんど失わ

160度にまで下がってしまう。また、か

め、水星の空では、いったん上ってきた

現象が見られるそう。地球と同じ岩

一ターで覆われていて、カロリス盆地

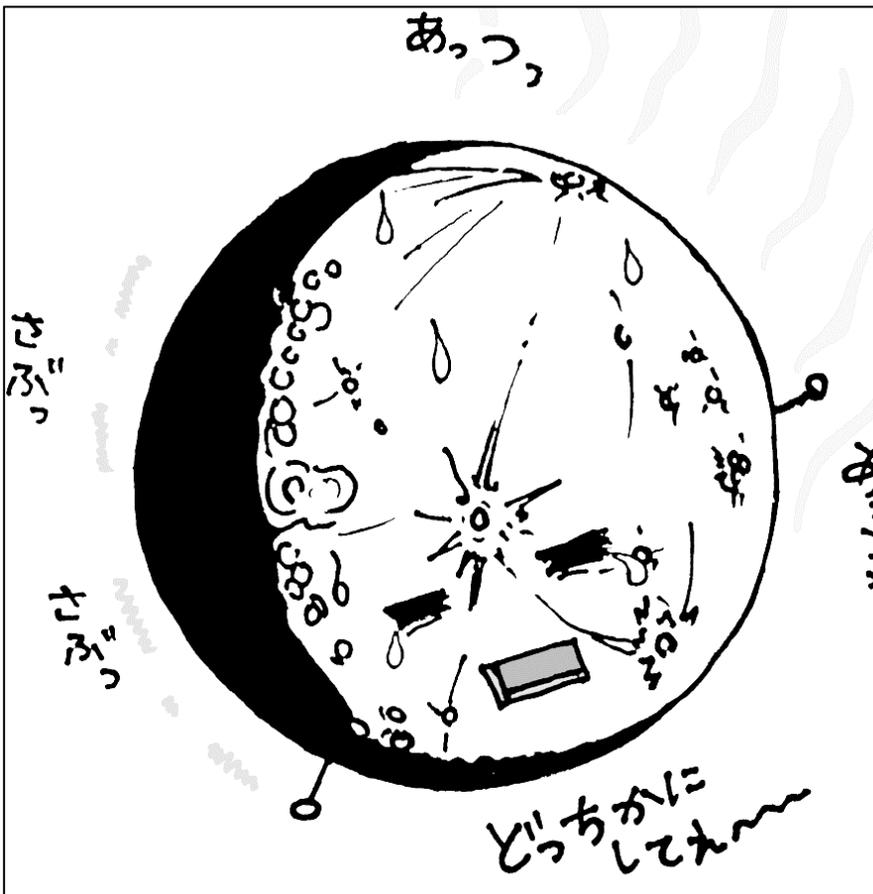
1300km(水星半径の1/2)もあり、巨大隕

表面の様子は似ているが、地上から

て高いことなどから、水星表面の土

られている。これまで水星に行った探

の2つ。2020年4月10日にはJAXAとESAが共同で運用するMMO/MPOが地球でスイングバイを行い、2025年の水星到着に向け飛行中。



は日の出直前、日没後の短時間だけに

と公転周期が、それぞれ58.7日と88.0

ているため、水星の1日(日の出から次

り長い。昼夜が長く続くため、昼の面

気がほとんどなく、太陽の側を向いて

れ、夜明け前には温度が摂氏マイナス

なり楕円を描く軌道で公転しているた

太陽がまた下がり、再び上る、という

せき石でできており、表面は、衝突ク

というクレーターの直径は約

石が衝突したと考えられる。月と

観測すると太陽光の反射率が月に比べ

壤は鉄分が少なく、白に近いと考え

査機はマリナー10号、メッセンジャー



にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」TEL 0795-23-2772 <http://www.nishiwaki-cs.or.jp/terra/>